

優秀賞

取り返しがつかない失敗

京都市立京都御池中学校 2年 武田 開

僕はそそっかしく、普段から様々な失敗をする。その度に「次はもっと気をつけよう。」とか「自分のこういう所を直そう。」と思うが、なかなか直らなかつたり、決心が足りなかつたりして又反省する。でも「失敗」という言葉で僕の心に一番に浮かぶのは、祖母のことだ。

祖母は内科医で、いつも忙しく仕事をしていたが、料理が上手で僕をいつもとても可愛がってくれた。七十歳をすぎてもいつも元気で、一日中仕事に家事にとび回っていた。でも、僕が八歳の時がंगाが見つかり、入院して手術をした。僕は、母に連れられて毎日のように病院へお見舞いに行った。祖母は一旦退院した後、すぐに又再入院になった。その頃から僕は病室に入れなくなり、廊下で母が出て来るのを待っていた。僕は状況がよく分からず、祖母はすぐに良くなり、又元気に仕事をして、前みたいに僕においしい料理を作ってくれるものだと思っていた。

最初に手術をした時から数ヶ月たったある土曜日、僕はいつものように剣道の稽古に行き、練習が終わると母が迎えに来て、自転車で祖母の病院へ向かった。五分ほど走ったところで母の携帯電話に伯母から電話があり、祖母が急変したので急いで来るようにと言われた。慌てて病院へかけ込んで階段を駆け上がって病室に到着した時には、祖母は亡くなっていた。

家に帰っても、僕は祖母が亡くなったということが本当だと思えなかったが、ずっと、祖母に「僕をいつも大切にしてくれてありがとう。」と言えばよかった、と思っていた。

僕がこの「失敗」から学んだことは、取り返しがつかない「失敗」もあるということだ。だから、家族や友達に伝えたいことは「いつか」言おうと思うのではなく、出来るだけすぐに「いつもありがとう。」「ごめんね。」と伝えなければいけないと思う。その「いつか」は、二度と来ないかもしれないから。